

(様式4)

推進校(又は推進地域)別事業実績報告書

<取組と成果のポイント>

工業高校としての専門教育・職業教育をとおして、人間としての在り方生き方を考える能力を育む教育課程および指導方法の研究

・学校行事、教科・科目の学習および特別活動に関する実践を通じて、各実践ごとの効果を実証的に検討した。

・生徒を対象として道徳性に関する意識調査を実施し、学年進行に伴う道徳性に関する意識の変容傾向を捉えた。

人間としての在り方生き方の自覚を深める道徳教育

・各教科・科目における「道徳性育成の視点」を盛り込んだ公開授業を全教員が実践した。

・ロングホームルームを活用した「道徳の時間」の公開授業を全ホーム担任が実践した。その結果、「道徳の時間」を実施するに当たって教師に不安の気持ちがあることが明らかとなった。

1 推進校(又は推進地域)の概要等

学校名	所在地	電話番号	備考
<small>いしかわ こまつこうぎよう</small> 石川県立小松工業高等学校	石川県小松市打越町丙67	0761(22)5481	

生徒・学級数

(平成20年5月1日現在)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計		教員数
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
全日制	工業科	242	6	228	6	231	6			701	18	校長 1
												教頭 2
定時制												教諭 49
												養教 1
計		242	6	228	6	231	6			701	18	実教 9
												助手 1
												講師 8
												計 71

2 研究課題

工業高校としての専門教育・職業教育をとおして、人間としての在り方生き方を考える能力を育む教育課程および指導方法の研究(平成19年度)

人間としての在り方生き方の自覚を深める道徳教育(平成20年度)

学校段階間・異校種間の連携体制の在り方(平成20年度)

3 研究主題とその設定理由

(1) 研究主題

職業教育をとおした人間としての在り方生き方教育

(2) 研究主題の設定理由

工業高校の生徒にとって、「人間としての在り方」とは社会に目を向け、地域の発展に貢献できる産業人としての自覚と目的意識をもつこと、「生き方」とは社会生活における自己の役割を自覚し、将来の生き方や職業を考え、自ら課題を見つけ責任をもって解決できる能力を養うことである。

生徒の進路希望を確認し、地域にはどのような企業があるのか、専門の教科等の学習をとおし自分がどのような仕事に向いているのか、働くとはどのようなことなのか、仕事とは何か、製品が出来る過程はどうなっているのか、また、就職するにあたりどのような資格・技能が必要なのか等を考えさせ、自己の進路の目標に向けて着実に努力を重ねていく生徒を育てていきたい。

また、中学校からの道徳指導の接続を配慮した「人間としての在り方生き方」の指導法について考える。

4 研究の概要及び特色

(1) 研究の体制

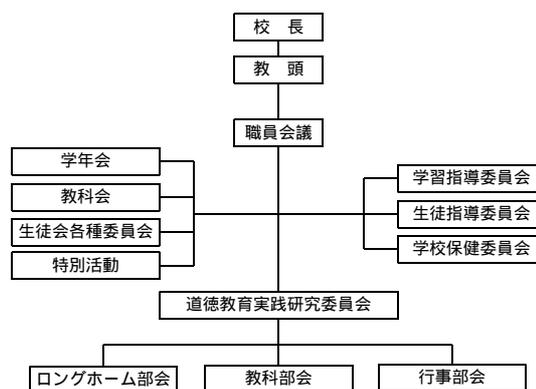
研究組織の概要

研究全体会（職員会議）

- ・ 研究計画、研究内容、研究方法、研究評価、等の全体にわたり、検討・協議を行い全体的な理解のもとに研究を推進する。

道徳教育実践研究委員会

- ・ 校務分掌、教科、学年と連携を取りながら道徳教育実践研究を推進する。



(2) 研究課題ごとの取組の状況

工業高校としての専門教育・職業教育をとおして、人間としての在り方生き方を考える能力を育む教育課程および指導方法の研究

- ・ 学校行事をとおした実践

ボランティア遠足

毎年春の遠足時に途中経路や行き先に於いて清掃ボランティア活動を実施している。この催しに連動し「春の遠足」を題材とした俳句短歌大会を実施した。



生徒から寄せられた俳句短歌を分析すると、当初予定したゴミ問題や地球環境についての意識づけ以外に、自然や崇高なものとのかわりに関する道徳の内容項目についても指導ができていたことがわかった。

P T A・生徒の本音で語る会

現在の生活や将来の生き方、職業について考えを深め、産業人としての自覚や目的意識が持てるよう、この取り組みを実施した。

生徒の発言は、3年生からのものが量的にも質的にも充実していた。これは、高校生としての学校生活の経験の豊富さや就職試験等を経て自分の進路を決定した体験が影響しているものと推察される。職業選択のための意志決定が、自分の在り方生き方を考える契機となっていることが示唆される。

外部講師事業（いのちと心の教育）

「自己の生命や心の大切さを知り、他人に対する思いやりや優しさを身につける」「思春期・青年期における心身の特徴を理解し、適切な意思決定や行動の選択ができるようにする」といった趣旨のもと実施した。

生命や心に関する基礎・基本的な内容の理解や今後の在り方生き方について考える良い機会になった。いのちについて考え、いのちの大切さを実感することが、より良い人間関係や男女関係の形成、自分や相手を大切に作る心、さらには今後の生き方に深く関係していると思われる。

・教科・科目の学習をとおした実践

インターンシップ学習

工業教育の一環として、学習の場を企業に依頼し、企業現場における活動を体験的に学習するため、2年次生徒全員を対象に実施した。

7割を超える生徒が、インターンシップを通じて理解できた・感じた・印象に残った・大切だと思ったこととして「時間を守ること」や「挨拶をしっかりとすること」を、4割を超える生徒が「きまりを守り安全に作業すること」「与えられた情報を正確に聞き、作業を確実にすること」を挙げている。職業観養い学習意欲を高める効果は高い。



小・中学校との連携事業

(a) 小学生への出前授業

地域の小学生に地球環境問題に興味関心を持ってもらうため、生徒を補助員とした出前授業「環境に配慮したものづくり」に取り組んだ。

児童にものごとを教えるという機会は、本校生徒にとって貴重な経験となった。自分たちの活動が人に感動を与え、人のために役立つということを体験できたことは、生徒にとって大きな自信となった。

(b) 中学生への出前授業

小松市立御幸中学校へ出向き、知的財産権に関する授業「みんなでアイデアを生み出そう」を実施した。本事業を実施することにより、高校生にとって「教える」ことからの「学び」を、また両校生徒の「在り方生き方」に関する意識の高まり（人と関わる力の育成）を期待した。

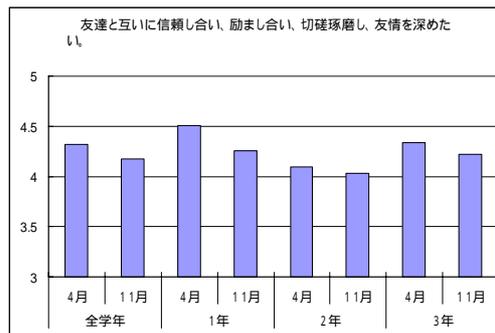
「教える」といった日常とは逆の立場を経験することにより、自分とは逆の立場の人に対する思いを巡らすことができていることがわかった。

人間としての在り方生き方の自覚を深める道徳教育

・道徳性に関する意識調査

生徒の道徳性の診断と評価をねらいとして実施したところ、以下の傾向を把

握することができた。ただし、調査結果の数値化については、全くそう思う... 5、どちらかといえば、そう思う... 4、どちらかといえば、どちらともいえない... 3、どちらかといえば、そう思わない... 2、全くそう思わない... 1で集計した。



一般に、4月に比べて11月の値が低下した。

学年間で比較すると、各道徳性の内容項目に当てはまると答えた生徒は、1年生が最も多く、2年生で急激に減少し、3年生でやや回復した。

・道徳教育に関する実践

「道徳性育成の視点」を盛り込んだ各教科・科目の実施

ロングホームルームを活用した「道徳の時間」の実施

5 研究の評価

(研究の成果)

(1) 「人と関わる力」の育成

中学校への出前授業では、「教える」といった通常とは逆の立場を経験することにより、自分とは逆の立場の人に対する思いを巡らすことができた。また、その立場の人が感じているであろう大変さに気づくことにより、生徒に感謝の気持ちが生まれた。

(2) ロングホームルームを活用した「道徳の時間」の実施

「道徳の時間」の公開授業を全ホーム担任が実践した。「道徳の時間」を実施するにあたり教師側に不安があったが、中学校の「道徳の時間」の参観および中学校の先生方からのアドバイスが参考になった。さらに、公開研究授業における協議会では、小・中学校の先生方から貴重な意見をいただくことができた。

(3) 道徳性に関する意識調査アンケートの実施

本校生徒の道徳性に関する意識傾向を把握することができた。

道徳性に関する意識調査の結果を、「道徳の時間」の有無を合わせて検討すると、高等学校の第1学年から「道徳」を履修すれば、道徳項目に対する意識の低下を防ぐことができる可能性が示唆された。

(今後の課題と予定している取組)

(1) 中学校との連携事業という貴重な機会を十分に生かせなかった。今後も、継続的にお互いで公開授業や協議会を実施していきたい。

(2) 当初目的とした「育成したい資質や能力」を測定するアンケートの作成およびその調査を実施できなかった。引き続き検討・開発を行っていきたい。

6 参照できるホームページアドレス

<http://www.ishikawa-c.ed.jp/~komakh/>